

学外活動応援奨学金 体験記

文学部西洋史学専攻 4 年 鈴木夕陽

はじめまして。私は今回、文学部の学外活動応援奨学金制度を利用して、2025 年 11 月 5 日～11 月 14 日の期間でドイツに渡航してきました。この制度は、2 年次に西洋史学基礎演習の先生に教えていただいたことをきっかけに知ることになりました。去年も応募を検討していたのですが、計画書を提出するのを忘れ、参加できませんでした…。中央大学生として最後の年にこのような機会を頂けて幸いです。詳しい調査内容などは報告書に記してありますので、ここでは旅行者として感じたことを書いてみようと思います。

ドイツで最初に降り立ったのは、デュッセルドルフという都市でした。成田空港、カタールのハマド空港と、大きな空港を通過してきたので、空港は小さめだなという印象でした。西洋史学専攻でありながら、ヨーロッパを訪れたことはなかったので、街並みや人の雰囲気含めどんなものなのか探るように外に出ました。まずは空港からタクシーでホテルに向かうのですが、デュッセルドルフは観光地というわけではないので、タクシーのおじさんは英語が通じず…。到着したらメーターの料金にチップが勝手に追加されていました。チップ文化がドイツでどのくらい重要な意味を持っているのかは短期間の渡航では分からなかったですが、日本育ちの自分からすると全く理解できないものでした。（ただ、サービスの質が悪かったことは一度もなかったです。）ドイツでは他にも様々な文化の違いを感じました。と、言いたいところですが、チップを除けば意外と何も感じませんでした。信じられないくらい短い信号でも列を作って真面目に待っているドイツ人が真面目な国民性と言われているのはよく分かります。夜道もたくさん歩きましたが、怖い思いは一度もしなかったです（神聖なケルン大聖堂の真下で殴り合いをしている人がいたくらい？笑）。

国民性っていうよりかは、電車一本で他国に行けてしまうのも、島国育ちだと慣れないものかもしれません。ケルンからフェンローというオランダの都市にも足を延ばしたのですが、チケットチェック・パスポートチェック共になし。シェンゲン協定によってこんなに気軽に行けるものとはすごいものです。オランダでもなんやかんやありまして、あるおじさんと 1 時間くらい立ち話をして、帰りは駅まで車で送ってくれたのですが、この方のおかげでオランダの印象がすごく良くなりました。この日もそうだったのですが、海外だと日本みたいに終電があるわけでもなく、深夜も、1 時間に 1 本とかですが、電車が運行していた点もとても便利でした（薬物中毒者や地元のヤンチャ中学生が暴れていたりはしますが笑）。

文字にして書いていると、色んなことを思い出してきて止まらなくなりそうなので、最後におすすめのドイツ料理とスポットを紹介して終わりにしたいと思います。まずおすすめ料理は、デュッセルドルフ駅前の BLOCK HOUSE というステーキ屋さんの「サラダ」

です。日本のサラダとは何が違うのかは分かりませんが、こんなにおいしいサラダはなかなか無い気がしました。西洋野菜のおいしさとドレッシングのレシピに何かあるのですかね。おすすめスポットとしては、ライン川の河川敷を挙げたいですね。日本でも河川敷は好きなのですが、ライン川の雄大さには圧倒されましたし、ものの30分ぼーっとしていただけですが、心の健康状態が全回復したような気分でした。大好きな国の一つになったので、また訪れてみたいです。

